

すぐろくで防災知識

ゲーム感覚で防災知識を身に付けてもらうと、浜松市の市民団体「みらいネット浜松」が、「はままつ防災すぐろく」を製作した。地震や津波を想定し、浜松の実情に沿った内容。このすぐろくを使った初の防災教室が二十三日、沿岸部にある南の星小(南区西島町)で開かれ、五年生七十八人が災害時に命を守るための具体的な方法を楽しみながら学んだ。(飯田樹与)

南の星小 児童学ぶ

住みよい地域社会づくり 成。スタートからゴールまでに取り組む同団体は、防災 で五十八マスあり、水やポスすぐろくを半年がかりで作 り袋などの防災グッズを手



すぐろくを通じて、災害への備えや災害発生時の行動を学ぶ子どもたち―浜松市南区の南の星小学校で

津波、地震 浜松の実情に合わせ

に入れる前半部と、地震発生後に起こる状況を表現した後半部からなる。津波が起こる遠州灘コースと、建物倒壊や火災が発生する浜松市街コースを設けている。

児童はさいころを振りながら、防災グッズのカードを手には災害の状況を具体的に示すマスに駒を進めた。「建物がおれる。ヘルメットがなければ一マスもどる」津波がきたニマスもどる」などの指示も。「津波タワーに避難しよう」のマスでは、同団体のメンバーが「どこにあるかを実際に見ておいてね」と促していた。

参加した中野笙太君(〇)は「避難場所を覚えていないと逃げる時困ると思った」、池田遥香さん(こ)は「アイテムカードで必要な物が分かった」と振り返った。

同団体の河原みち代代表(セ)は「災害が起こったとき、どんな行動をとれば良いか、楽しみながら学んでほしい。ほかの学校でも開いていきたい」と話していた。